

平成 28 年 9 月 20 日

各 位

東京都港区虎ノ門四丁目 1 番 28 号  
虎ノ門タワーズオフィス  
フィンテック グローバル株式会社  
代表取締役社長 玉 井 信 光  
(コード番号：8789 東証マザーズ)  
問合せ先：取締役 上席執行役員 鷺本 晴吾  
電 話 番 号： ( 0 3 ) 5 7 3 3 - 2 1 2 1

### 業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 27 年 11 月 13 日に公表いたしました平成 28 年 9 月期の業績予想及び配当予想について、下記の通り修正することとしましたので、お知らせいたします。

#### 記

#### 1. 業績予想の修正について

平成28年 9 月期連結業績予想 (平成27年10月 1 日～平成28年 9 月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	7,700	230	180	170	1.05
今回修正予想 (B)	7,470	△1,050	△1,360	△1,420	△8.77
増減額 (B-A)	△230	△1,280	△1,540	△1,590	—
増減率 (%)	△3.0	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (27 年 9 月期)	5,429	115	237	224	1.48

#### (修正の理由)

投資銀行事業では、ヘルスケア分野のサービス付き高齢者向け住宅を中心としたアレンジメント業務やアセットマネジメント業務の受託が順調に推移しております。一方、太陽光発電事業のアレンジメント業務受託・売却は期初に売上高17億円、売上総利益7億円を予定していたものの、優良プロジェクトの獲得競争の激化により取得予定先のキャンセルや諸条件が揃わず最終契約に至らない案件が発生しました。案件を機動的、確実に確保するため、一部案件はアレンジメントから取得・売却に切り替えて実行した結果、原価率が上がりました。また、開発案件を開始したものの収益化まで期間を要し想定を大きく下回って推移しております。この結果、太陽光発電事業のアレンジメント業務受託及び取得・売却等による売上高は約20億円、売上総利益は約1.8億円となる見込みです。企業投資においては、大型のエグジットはなく、その他のエグジットによる収益も期初予想に達しないため、売上高は1.1億円(当初予想比69%減)、投資先のファンド経費等により売上総損失0.5億円(当初予想は1.5億円の売上総利益)となる見込みです。これらの結果、投資銀行事業の売上高は24.7億円(当初予想比22%減)、売上総利益は4.6億円(当初予想比77%減)となる見込みです。

不動産事業では、戸建住宅の建築・販売が軌道に乗ったことや不動産賃貸会社の子会社化により、売上高は期初予想を上回りました。また営業所の統廃合とその他のコスト削減効果により収益性は改善しました。しかしながら、新築マンション市況の低迷等の影響により不動産紹介売上が期初予想を下回る他、不動産仲介売上也も期初予想に達しない見込みです。この結果、不動産事業の売上高は51億円（当初予想比5%増）、売上総利益は11億円（当初予想比16%減）となる見込みです。

上記の通り、戸建住宅販売が順調であったことや取得した太陽光発電所売却があったもののアレンジメント業務受託が減少したことにより、売上高は7,470百万円（前回予想比3.0%減）となる見込みです。販売費及び一般管理費は期初予想の水準であります。戸建住宅販売増や太陽光発電所売却により売上原価が期初予想より増加したことで、営業損益は1,050百万円の営業損失（前回予想は230百万円の営業利益）となる見込みです。経常損益は為替差損の計上等により1,360百万円の経常損失（前回予想は180百万円の経常利益）となり、親会社株主に帰属する当期純損失は1,420百万円（前回予想は170百万円の親会社株主に帰属する当期純利益）となる見込みです。

## 2. 配当予想の修正について

	年間配当金		
	第2四半期末	期 末	合 計
前 回 予 想 (平成27年11月13日発表)	—	円 銭 0.60	円 銭 0.60
今 回 発 表 予 想	—	0.00	0.00
当 期 実 績	0.00		
前 期 実 績 (平成27年9月期)	0.00	0.60	0.60

### (修正の理由)

当社は、利益配分に関しまして、経営基盤の強化と拡大する事業を迅速かつ確実に捉えるために、十分な内部留保金を維持することに留意しつつ、株主の皆様へ利益を還元することが配当政策上重要であると考え、業績の状況や将来の事業展開などを総合的に勘案して配当することを基本といたしております。

上記1.に記載のとおり、業績予想が前回公表値より大きく下回る見込みとなったため、誠に遺憾ではございますが、期末配当を見送りとする方針としました。

## 3. 次期（平成29年9月期）見通しについて

次期については、太陽光発電事業及びサービス付き高齢者向け住宅事業のアレンジメントなど、今期収益計上するに至らない案件が複数あり、また企業投資やアセット投資の回収もいくつか見込んでおります。これらの予定を鑑みると、次期はメツツァ事業の戦略的投資による先行費用が発生するものの、収益力は大幅に改善する見込みであります。

(注) 上記の業績予想及び配当予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績及び配当は、今後の様々な要因により、上記予想数値とは異なる可能性があります。

以 上